第 28 回学芸員研修会開催要項

1. 名　　称　全国美術館会議　第 28 回学芸員研修会
2. 主　　催　全国美術館会議
3. 日　　時　平成 26 年 3 月 3 日（月）10：00～17：00
4. 会　　場　国立西洋美術館　講堂
   〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-7 TEL：03-3828-5131（代表）
5. テ ー マ　「地域からの視点ー美術史の再構築に向けて」
6. 開催趣旨　長期にわたる財政難から全国の美術館では寄贈を中心とした作品収集が続いています。地縁のある美術家の作品がまとまって収蔵される例も増えており、これに伴って地域の美術活動の再検証が進んで、東京や京都を中心に組み立てられてきた従来の日本近代美術史を見直し、地域から美術を見る新たな視点が発掘されつつあります。地域美術研究の実態を共有することで、各美術館をより有効な調査研究の場として活用するとともに、多視点をもった新たな近代美術史の構築を目指し、学芸員研修会を開催するものです。
7. プログラム

   9：30－10：00　受付
   10：00　開会　司会：中村 誠（埼玉県立近代美術館）
   10：05　開会挨拶　全国美術館会議企画委員長 雪山行二（富山県立近代美術館）
   10：10　趣旨説明　全国美術館会議副会長 山梨俊夫（国立国際美術館）
   10：25－12：30　事例発表「地域の美術に宿る独自性はなにか？」
   1．歴史的な地方美術の展開＝西村勇晴（北九州市立美術館）
   2．山脇信徳―首都から地方へ＝鍵岡正謹（岡山県立美術館）
   3．福島の美術家たち＝増渕鏡子（福島県立美術館）
   4．名古屋の美術運動＝山田諭（名古屋市美術館）
   12：30－14：30　〈休憩　昼食／　国立西洋美術館「モネ」展自由見学〉
   14：30－17：00　討議「地域の美術から組み立てられる新たな美術史の可能性」
   討議項目：地域に根差したコレクション作りの方法、地元美術の研究の現在、共同研究の可能性等
   進　　行：山梨俊夫副会長
   17：00　閉会
   17：15－19：00　懇親会（会費制）

◎当日の昼食は各自、休憩時間内（12：30－14：30）に館外でお取りください。なお、講堂内は飲食禁止となっております。

◎昼食休憩時間中、国立西洋美術館「モネ」展を自由に見学できます。

◎研修会終了後、懇親会を行います。（会費 1,500 円、当日受付時に徴収いたします）

全国美術館会議　第 28 回学芸員研修会

「地域からの視点 ― 美術史の再構築に向けて」

日時：　平成 26 年 3 月 3 日（月）10：00－17：00
会場：　国立西洋美術館　講堂

いま、全国の美術館のほとんどは、長期にわたる財政難に苦しんでおり、作品収集についても購入予算がゼロ、という美術館が多い。しかし一方でその状況に立ち向かいながら、寄贈を中心にしてコレクションの充実を図り成果を上げている美術館も増えている。

寄贈作品が絶えないことについては、20 世紀後半以降、いくつかの災害に見舞われながらも、一挙に大量の美術品を失う災禍に遭遇しなかった時代が 70 年ほど続き、作家たちとコレクター、その家族の手元に多くの作品が遺されてきたことも大きく関わっている。手元に残った作品の行方を思いあぐねた高齢の作家、コレクターたちが、最良の行き場に美術館を選ぶために、寄贈の申し出が増大し、美術館はそれを受けてコレクションの充実に努めている。

その結果何が起きているか。寄贈を受ける根拠を地縁に求めることから、多くの美術館で、「地元作家」の作品が目立つようになっている。地縁のある作家の作品収集は、別段いまに始まったことではなく、各美術館が設立当初から掲げている収集方針のひとつであることは言うまでもない。しかし最近の収集活動では「地元」がますます重きを占めるようになる傾向が強い。そして寄贈による大量の収集に伴う作品の調査研究は、地域の美術活動の再発見、時代を主導した首都圏と各地域の関連性の再検討につながっている。

こうした研究が現在、各地の美術館で次第に本格化し、具体的な成果を上げているが、一方で地域研究の方法は従来の文脈で行われることが多く、また、研究に関する美術館相互のコミュニケーションが充分とはいい難い。今後は個別的な研究から見出される課題の共有、更には相互的な情報交換に基づいた新たな研究方法、組織的な共同研究の開発などを探っていく必要があると思われる。そしてそのことによって、東京や京都中心に組み立てられてきた従来の日本近代美術史の見直し、地域から美術を見る視点の発掘などによって、多視点をもった新しい美術史構築の可能性も探究できると思われる。また、更にはこうした作業が広がりをもつことによって、調査研究活動の活発化と深化、収集と展示の更なる充実、地域の尊重などいくつもの側面から美術館活動の活性化が図れると期待される。

以上のような諸点を考慮し、現在、既にこの種の調査研究を実践している人々を報告者にして、地域美術の研究の実態を共有し、また各自の美術館をより有効な研究の場として新たな調査研究の視点を切り開くことを目指し、全国美術館会議が主体となった学芸員研修会、ないしはシンポジウムの開催を企画している次第である。